

## 第4学年 総合的な学習の時間学習指導案

場 所 4年2組教室

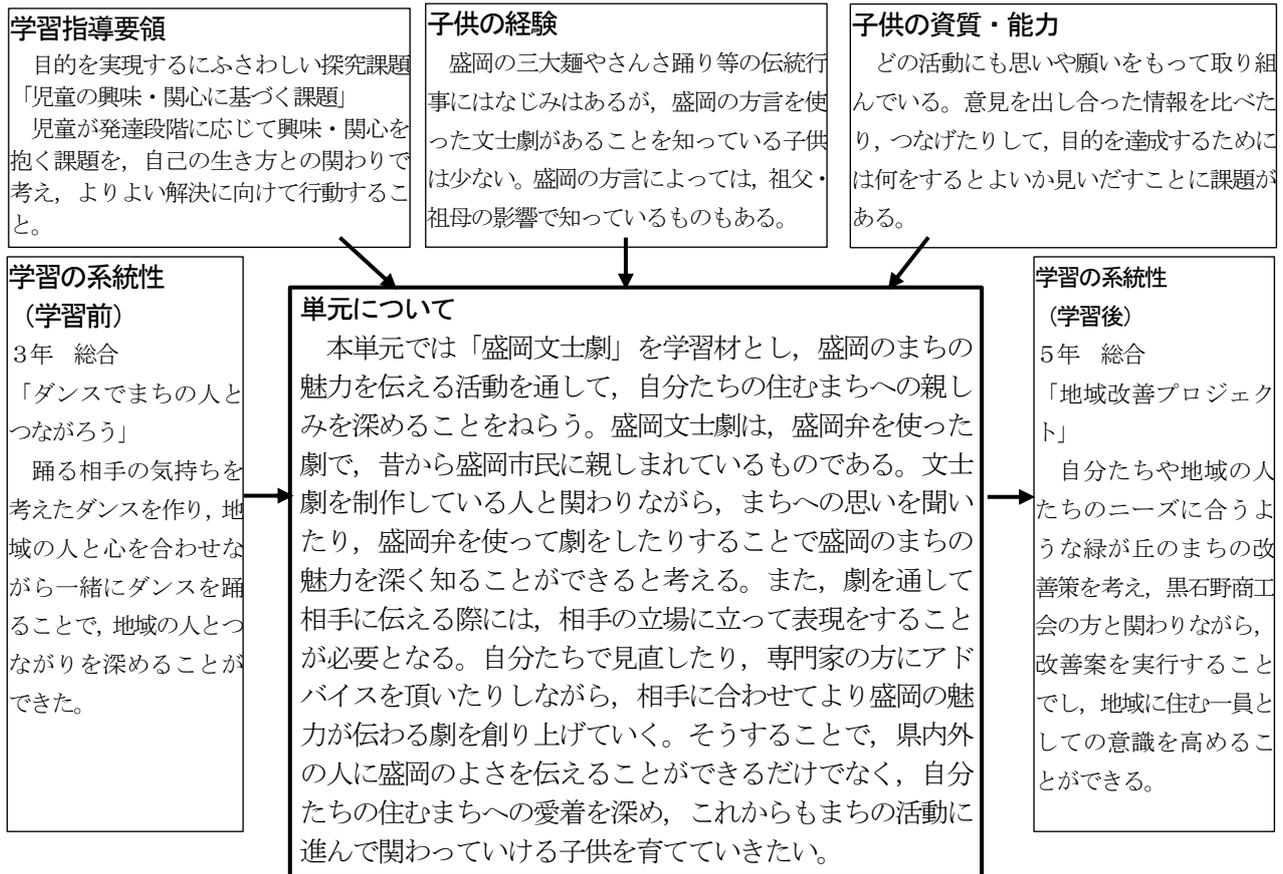
児 童 男18名 女17名 計35名

指導者 鈴木 広 太

### 1 単元名（題材名，主題名，教材名，議題）

盛岡の魅力伝え隊～盛岡文士劇を通して，盛岡の魅力を伝えよう～

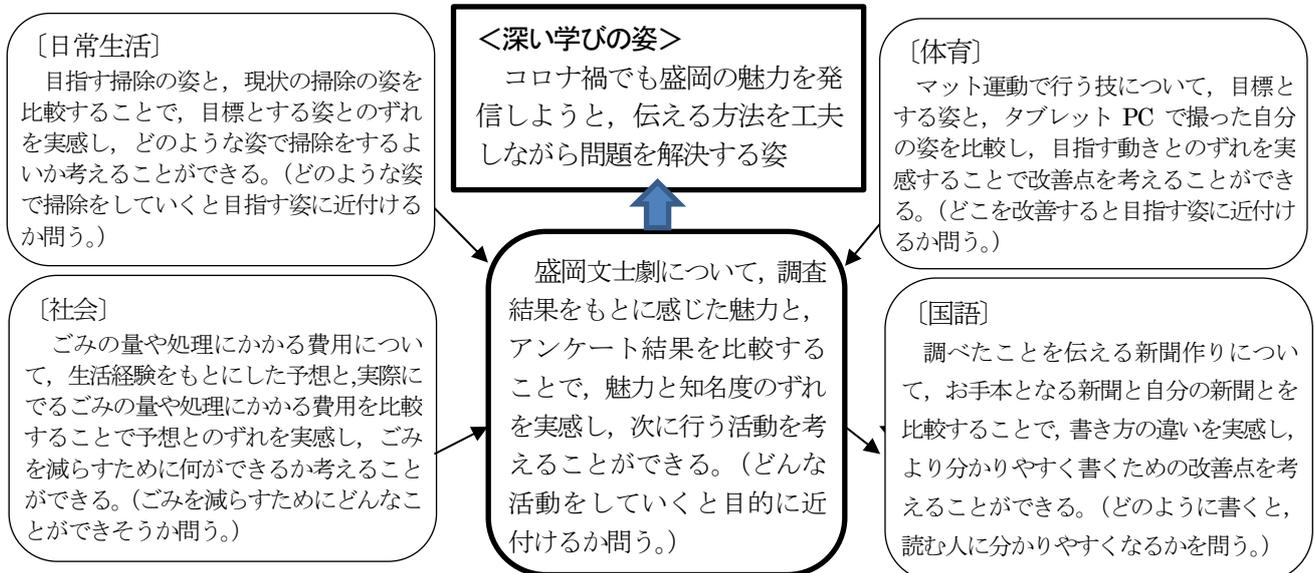
### 2 単元の指導構想



### 3 指導にあたって

そこで，協働的に学び合いながら問題解決をし，生活を創り出す子供を育てるために，その実現に向けて，以下のような手立てをとる。

#### 視点1 教科等間の『考えるための技法』の活用・発揮



## 視点2 深い学びの実現に向かう単元構成

- ・ 子供の思いや願いの中から、「文士劇を行うことを通して盛岡の魅力を伝える」という目的を達成するための活動を定めることができるように、どの活動が必要かを問いながら、単元を構成していく。
- ・ 文士劇を通して盛岡の魅力を伝えるための活動を、目的的に行うことができるように、教師が子供の思いや願いをもとに考えるための技法を位置付ける。

## 視点3 単位時間の考える活動の充実

- ・ 学習課題がより自分事の問題になり本時の活動を見通すことができるように、本時のゴールと問題解決に必要な考えるための技法を子供と決める。
- ・ 盛岡文士劇を通して、盛岡の魅力を広めるために必要な情報を集めることができるように、「どんな情報を集め、どう分析していくと学習課題が解決していけそうか」を問う。
- ・ 整理・分析した情報をもとに学習課題について自分の考えを再構成することができるように、「調べた結果、学習課題についてどう思うか。」問う。
- ・ 文士劇を通して盛岡の魅力を伝えることに近づいたのかを確認し、単元における本時の意味を実感できるように、「課題は解決できたか」「この時間で考えたことは何か」を問う。

## 4 単元の指導計画

### (1) 目標

盛岡文士劇を行い盛岡の魅力を県内外の人に伝える活動を通して、歴史や伝統のよさを大切に守り続けながらまちの魅力を伝えようとしている人がいることや、その取組や考えのよさに気付く。また、コロナ禍でも盛岡の魅力を伝えることができる方法を工夫して行うことで、自分たちが住むまちのよさを実感し愛着をもつとともに、これからも盛岡のまちのためになる活動に関わろうとする。

### (2) 評価規準 (第2次)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 文士劇に関わる方から話を聞くことで、方言よさを伝えようとしている人の思いに気づき、様々な方法でまちの魅力を伝える方法があることを理解している。 ② 劇を通して思いを伝えるには、目線、話し方など、相手の立場に立って表現することが大切であることを理解している。	① 方言を通して盛岡の魅力を広げるといった願いの実現に向けて、解決の見通しをもちながら活動を行っている。 ② 文士劇を創り上げるまでに必要な情報を生活経験をもとに調べている。 ③ 目的としている劇にするために、自分たちで集めた情報や、専門家の方にアドバイスを頂いたりしたことを整理・分析し、目的と照らし合わせ、改善策を考えている。 ④ 盛岡の魅力を相手に伝えるということを意識しながら、学習課題について自分の考えを表現している。	① 盛岡文士劇を見たり、実際に盛岡弁を使って話をしたりすることで、文士劇や方言への関心を高め、目的の達成に向けて進んで探究活動に取り組んでいる。 ② 目的の実現に向け、互いに考えを伝え合い、よさを生かしながら劇を創り上げようとしている。

### (3) 指導計画 (70時間)

段階	主な学習活動	指導の手立て	考えための技法	評価規準 (評価方法)
問題の把握	○3年生のわかばタイムでついた力と、今年やってみたいことを話し合う。 ○盛岡のことで調べてみたいことを調査する。 ○盛岡市役所の方に、盛岡ブランドの取組について教えていただく。 ○盛岡ブランドの取組について振り返り、これからの活動の方向性を決める。	盛岡ブランドは、盛岡にしかないよさのあるものだということが分かった。	市役所の方は、色々な人と協力して、魅力を発信する取組をしてくれています。	魅力度ランキングは133位。コロナのこともあってとても下がってしまった。もっと上でもいい。あまり、盛岡のことを知らないのかな。
	○盛岡のことを知ってもらっているか、アンケートをとり、結果を整理・分析し、結果から見えてきたことを伝え合う。	自分たちが有名だと思っていたものも、あまり知られていない。	来たことある人もほとんどいなかった。盛岡のことを知らない、行きたいと思わないかも。	自分たちも盛岡ブランドのよさを広める取組をすれば盛岡に来る人が増えるかもしれないね。盛岡のよさを広める取組をしよう！
第1次	○できることの内容をもとに、盛岡のどの魅力を県外の人に伝えていくか決める。	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             盛岡文士劇を、自分たちでもやってみたい。劇を通して、盛岡のよさを伝えたい。           </div>		

<p>問題の追究 第二次</p>	<p><b>盛岡文士劇の魅力伝えよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○劇作りを始めるための見通しを立てる。</li> <li>○調査する方法を話し合い、決める。</li> <li>○グループごとに調査活動を行う。(PC・インタビュー・アンケートなど)</li> <li>○文士劇の魅力についてのアンケート結果をまとめる。</li> <li>○盛岡文士劇の魅力について、話し合う。(本時)</li> <li>○劇の魅力を伝えるまでの見通しを立てる。(誰に見てもらおうか、公演までに必要な準備など)</li> <li>○盛岡弁の使い方を覚える。</li> <li>○盛岡弁の話方について、方言の先生にアドバイスを頂く。(日常)</li> <li>○劇にする話を決め、台本を作る。</li> <li>○役割分担をし、稽古をする。</li> <li>○衣装やセットの準備を行う。</li> <li>○1回目の公演をする。</li> <li>○目的とする公演になったか、振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 劇作りを始めるまでの見通しをもつことができるように「何が分かる」と劇作りが始められそうか。」を問い、調べることのアイディアをウェビングで整理する。</li> <li>・ 見通しをもって調査活動を行うことができるように、ステップチャートを活用し、調査を終えるまでの計画を立てるように促す。</li> <li>・ 算数で学んだことを生かして結果をまとめられることに気付けるように、「結果をどう表すとよいか。」を問う。</li> <li>・ どんな魅力が文士劇にあるのかを、調べたこととアンケート結果を関連付けて考えることができるように、黒板に整理して板書をする。</li> <li>・ 目的を達成するまでの見通しをもつことができるように、子供と決めた順番を板書で位置付ける。</li> <li>・ 劇で自然に盛岡弁を話すことができるように、調べた盛岡弁や専門家の方に教えて頂いた話すときのコツを掲示しておく。</li> <li>・ 目的を達成するために必要なアドバイスをし合うことができるように、見合う前に「何を見合う。」か問い、視点を設定する。</li> <li>・ 専門家の方のアドバイスを生かした改善策を考えることができるように、「どうすればよりよくなりそうか」を問う。</li> <li>・ 目線や話し方が見やすい表現になっているか確認できるように、公演の映像を用意し、「相手に伝わる劇になっているか」を問う。</li> <li>・ 目的が達成されたかを根拠をもって語るができるように、「どうしてそう思ったのか」を問う。</li> </ul>	<p>比較</p> <p>関連付ける</p> <p>比較</p> <p>比較</p> <p>関連付ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文士劇について調べることのアイディアを出し合い、劇作りを始めるまでの見通しをもっている。 【思①→発言・ノート】</li> <li>・ 様々な調査方法の中から、知りたいことがより分かる方法を選び、計画を立てている。 【思①→発言・ノート】</li> <li>・ 盛岡文士劇が作られた思いを聞くことで、自分たちの目的との共通点に気付くと共に、まちの魅力の発信の仕方には多様な方法があることに気付いている。 【知①→発言・ノート】</li> <li>・ アンケートの結果を整理し、調べた情報をもとに盛岡文士劇の魅力に自分なりに考えている。 【思③→ノート】</li> <li>・ 文士劇について、調べて感じた魅力とまちへのアンケート結果を比較することで、次の活動への思いをもつことができる。 【知①→発言・ノート】</li> <li>・ 劇の実現までに必要な活動を伝え合い、順序立てることで実現までの見通しをもっている。 【思①→発言・ノート】</li> <li>・ 劇で盛岡弁を使うことができるように、専門家に方言を教えてもらったり、PCで調べたりして必要な情報を集めている。 【思②→日常生活】</li> <li>・ 互いの表現を見合い、目的を達成するために必要なアドバイスをし合っている。 【態②→発言】</li> <li>・ 友達や専門家の方からのアドバイスをもとに自分たちの表現を見直し、改善点を考えている。 【思③→活動の様子】</li> <li>・ 目線や話し方等、見る人の立場になって、自分の表現をしている。 【知②→活動の様子】</li> <li>・ 見ている人の様子やアンケート結果をもとに、自分たちの目的が達成できたか考えている。 【思④→発言・ノート】</li> </ul>
<p>問題の追究 第三次</p>	<p><b>盛岡弁のよさが伝わるような文士劇にしよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○課題を解決するための方法を、1回目の公演の様子をもとに考える。</li> <li>○盛岡弁教室を行う。</li> <li>○2回目の公演で行う話を決め、役割分担を行い、稽古をする。</li> <li>○2回目の公演を行う。</li> <li>○1回目の公演の様子と比べながら、2回目の公演を振り返り、これからの活動を考える。</li> </ul>			
<p>まとめ 第四次</p>	<p><b>県外の人に盛岡の魅力が伝わる劇を作ろう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○盛岡の魅力が伝わるような台本を考え、文士劇の台本担当の方に見てもらおう。</li> <li>○アドバイスをもとに修正し、役割分担をして、稽古をする。</li> <li>○他県の小学生に、オンラインで公演をする。</li> <li>○これまでの活動を振り返る。</li> </ul>			

5 本時の指導計画

(1) 目標

盛岡文士劇について、調査活動を通して感じた魅力とアンケート結果とを比較し、次の活動への思いをもつことができる。

【思考・判断・表現】

(2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
盛岡文士劇について、調べて感じた魅力とアンケート結果を比較し、まちの人への文士劇の知名度を知ること、劇をする目的を見直し、これからの活動への思いをもつことができる。 [思考・判断・表現]	調査活動を通して感じた魅力と、まちの人が感じている文士劇の魅力を比較し、魅力と知名度のずれを捉えることができるように、「まちの人に魅力が伝わっていると思うか。」を問う。

(3) 展開

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援 (◇評価)	資料 等
導入 (5分)	1 課題を確認する。  盛岡文士劇には、どんな魅力があるのだろう。	・ 学習課題を自分事に捉え、解決の見通しをもつことができるように、「ゴールはどうするか。」「どんな方法で考えていくか。」を問い、子供と活動の流れを決める。	・ 自分たちの活動の目的が分かる掲示
展開 (30分)	3 調査した情報をもとに、盛岡文士劇の魅力について話し合う。  方言のよさを知ってもらうために、演技を通して伝えていることが魅力だと思う。話すだけより、意味が伝わりやすいね。  一つの言葉でも、意味が一つではないことも魅力だと思う。畑中さんも、豊かな表現ができると言っていたよ。  4 文士劇の魅力と、アンケート結果を比較し、考えたことを伝え合う。  アンケート結果では、聞いたことがある人は多いけれど、見たことがある人は少ないみたい。  こんなに面白くて魅力のある劇で盛岡ブランドにもなっているのに、魅力を知っている人が少ないよ。	・ 調べた根拠をもとに盛岡文士劇の魅力を語るができるように、「どうしてそれが魅力だと思ったのか」を問う。また、感じた魅力を共有できるように資料等を掲示する。  手立て① 調査した結果をもとに、文士劇には魅力があるのかを考えることができるように、「文士劇は魅力のある劇か。」を問う。  手立て② 自分たちが感じている魅力と、まちの人が感じている魅力のずれに気付くことができるように、盛岡文士劇の魅力についてのアンケート結果を提示し、「結果についてどう思うか」を問う。	・ 調べた情報の資料  ・ アンケートの結果
まとめ (10分)	5 活動を振り返り、次の時間の見通しをもつ。  魅力がたくさんある劇だということは分かったけれど、思っていたより魅力を知っている人が少ないことも分かった。県外だけでなく、県内の人にも盛岡文士劇の魅力を伝えていきたいな。	・ 本時の話し合いをもとに、次の時間に行う活動を決めるように、「次の時間は何を行うとよいか」を問う。  ◇ 盛岡文士劇について、調べて感じた魅力とアンケート結果を比較し、まちの人への文士劇の知名度を知ること、劇をする目的を見直し、これからの活動への思いをもつことができる。  【思 発言・ノート】	